

- 00 : 20 私たちの中学校の生徒達の実態は、なかなか家でその日に習った内容を復習する生徒が少ない。そのため、その日の授業で習ったことをプリントにして、復習させている。さらに、そのプリントをやってきたかどうかを教師がチェックすることになっている。その宿題を板書し、答え合わせしながら、前時の復習をすることにし、前時に内容を想起させることを繰り返し、指導している。板書する生徒は列ごとに機械的に指名する。この日は男子1名、女子5名に指名する。4問以上の正解者はパーで挙手させることにより、相互評価をさせる。
- 03 : 19 板書された解答を解説しながら答え合わせをする。その際、生徒にやり方を聞いたりする。書き方の誤りがあれば、正しい書き方を説明する。
- 07 : 06 生徒は計算問題は比較的難なく解くのであるが、文章題となるとなかなか苦手である。これは式を立てることに抵抗があり、立式できないことから不得手である。ともすると、関数的な考え方で答えを求めがちであるが、立式して解くことの良さを見付け、立式して解くことの簡単さを体得させることを目標にした。
- 07 : 50 紙板書の問題を生徒に読んでもらい、問題の意味を理解させる。
- 09 : 30 一人ひとりに考えさせるための、自分の考え方をプリントを渡し、頭の中の考えを文字において考えさせる。
- 10 : 26 机間巡視しながら、生徒の考えを調べどのような考え方で解いているのかを見る。生徒の考え方がどんなパターンで考えているのかを分類する。巡視しながら、問題の意味をわかりやすく生徒との会話の中で明らかにする。
- 16 : 05 一人ひとりの考え方を聞く。わかった人はパー、よくわからない人はグー、何となくという人はちょきとし、自己評価させる。パーの人はたった1人のみ。ちょきの人の考え方をみんなの前で明らかにする。230円のケーキを10個買うと考えると、オーバーし次は9個、8個と考え、2100円以下になる個数を探し出す生徒が出てきた。同じ考え方の人を挙手させ、解答を見つけださせる。

- 20 : 31 他の考え方を発表してもらうことにする。
- 21 : 43 不等式を立てずに、ある程度見当を付けて答えを見出す考え方を教師が説明する。2個のケーキの値段の違いから数を見付けていく方法である。
- 23 : 35 不等式を立てた生徒に考え方や立式の仕方を発表してもらう。この説明でわかった生徒は5名程度。別な生徒に説明を求めるが
- 26 : 08 本日の授業の課題プリントを配り教師の説明を行う。
- 26 : 40 求めるものが題意から考えて何を x にするのかを考えさせ合わせて10個買うことから他方を $(10 - x)$ とすることを教える。
- 27 : 25 他方を $(10 - x)$ で表すことができるということがわからない生徒が居るかどうかを確かめながら低位の生徒に発問し、一方が6個であれば他方は $(10 - 6)$ で表されることを確認する。
- 29 : 40 個数と1個の値段から表を使い不等式を立式する。
- 30 : 40 立式した不等式を解き方を再度生徒に説明させながら解法する。
- 32 : 32 最大の整数を見付けさせる
- 33 : 16 どちらが簡単なのかを考えさせ不等式を解くほうが楽であることに気が付く
- 34 : 42 問題を2つ提示し、不等式を立てて解を求めることを要求する。
- 35 : 40 生徒の解き方を見ながら、個別指導していく
- 38 : 10 低位の生徒に対してはじっくり話しかけながら指導する
- 39 : 10 低位の生徒に対してはじっくり話しかけながら指導する
- 40 : 20 問題1、問題2の不等式を立式するための補助の表を教師が板書する。

- 4 2 : 0 0 巡視の中で問題 1、問題 2 の板書する生徒を指名し板書してもらう自分のプリントを持参せずに解く
- 4 3 : 0 0 生徒が板書している間も巡回し全員最後まで解けているかどうか見て歩き、個別指導を繰り返す。
- 4 7 : 1 9 生徒の板書を使って説明をする。立てた式から解を求め正しいかどうか検算してみる不等式の解と文章題の答えとの違いを考えさせる。
- 4 9 : 5 0 本日の授業のねらいの再確認を行う。問題にある答えを 1 つ 1 つ求めるのではなく不等式を立てて解を求め答えを出していく良さについて再確認させる
- 5 0 : 2 4 次の時間までの宿題のプリントを配布し、次の時間までにやっておくことを指示する。
- 5 1 : 3 8 元気に挨拶をする。